

夏祭り

市の年中行事の一つとして、毎年七月に行っている夏祭りみこしパレードは、粕壁東四丁目の一宮町歩道橋際に鎮座する「八坂神社」(牛頭天王社ともいう)の祭礼を近代的にしたものです。

この祭礼は、いつの頃からはじまったかは不明であるが、江戸時代の粕壁宿名主が書き留めておいた「古文書」の「宿公用日記」には、文政八年(一、八二五)と文政十三年(一、八三〇)の夏祭り(天王祭礼)についての記録があります。このことから推定して、粕壁宿が日光道中の第四宿駅として、宿場が栄えた元禄時代からではないかと考えられます。

天王祭礼は、江戸時代は旧暦の六月、太陽暦になってからは毎年七月に行われています。祭礼日は九日を宵宮みやといつて、御神輿を神社から仮宮へ移す神事が行われる。十二日と十四日は祭礼の日としていろいろな行事が行われてきた。

祭礼当日は各町内から山車(素戔鳴尊像等の人形を飾った巨大なもので、江戸時代から伝えられているもの。現在、内出町と一宮町にその名残りをとどめる器材が保存されている)や神輿、行燈飾り物等がでて、賑わったことが知られている。

明治以降になって、踊り舞台を擬した屋台山車が作られ、いまも上町・仲町・本町・三枚橋・大砂・元町等で保存されているが、交通に支障をきたすので、引き廻しはされていない。

以前は、八坂神社の御神輿の渡御は十五日 氏子代表の若者達が白衣装で、御神体を祀った神輿を町内つぎおく継送りで宿内を巡行した。十二日と十四日は各町内の神輿・山車・屋台山車等が宿内をねり歩いた。

戦後、巡行は若者達が少なくなつて、かつぐ渡御が不可能になり、牛車に乗せて宿内を巡行していた。その後、交通事情と手不足等により、この行事も中止されている。

終戦直後は、この祭礼も取締がきびしく催すことができなかつたが、新憲法制定祝賀行事から復活した。しかし、国道の使用は交通の妨げになることから規制されたので、これらの神輿は内牧地区まではこぼれ、かつがれた。

その後、連合青年会が警察署と協議し、町内神輿・山車等の渡御方法を制定して、宿内で祭礼を実施したが、交通量の増大により中止し、一年おき等の措置を考えるようになった。

昭和四十八年、市制二十周年を記念し、観光協会が主催して、いまの夏祭りが復活した。今年で九回目の夏祭りです。

「古文書」の文政八年事項を要約すると、当時の代官伊奈半左衛門から「天王祭礼一件」について、粕壁宿名主が呼び出され、お調べを受けたものです。

内容は、九日に仮屋に移し、十二日・十四日は二町内が当番で、仮屋と神酒所を作った。子供達は太鼓をたたく、御神輿は宿内を渡御している。聞く所によると、上・仲・新宿では祭礼に使乘して、空地を利用し路上まで華麗な飾り物をした。そして、手踊り師匠を雇って舞台を催したことは、御法度をわきまえぬ仕業である。と叱られた上、重立った人達に過料または、手鎖りの罰を課せられたとある。

初出「広報かすかべ 昭和五十六年六月」かすかべの歴史余話